

氏 名：青山 さやか

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第 228 号

学位授与年月日：2022 年 9 月 20 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 小山田 恭子（聖路加国際大学教授）

副査 片岡 弥恵子（聖路加国際大学教授）

副査 瀬戸屋 希（聖路加国際大学教授）

副査 堀越 勝（国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター特命部長）

論文題目：助産師に対する認知行動療法の活用に向けたトレーニングプログラム開発と評価

#### 博士論文審査結果

本論文は産科施設等に勤務する助産師の認知行動療法（CBT）スキル向上と実践での活用を目標とした「CBT 教育プログラム」を開発することを研究目的とした。予備研究でプログラム及び評価のための尺度を開発し、本研究では 18 名の助産師を対象に CBT に関する知識、自信・意欲、スキル、CBT 実践の 4 項目についてプログラム評価を行った。研究デザインは混同研究法収斂モデルを用いた 1 群プレポストデザインであった。その結果、知識やスキルの修得については目標を達成できたが、CBT を実践で活用するための課題やプログラムの修正点も明らかとなった。

審査は 7 月 15 日にオンラインで行われた。審査で出された主な意見は次のとおりである。

- ・ 本プログラムの目的が不明確。精神疾患の診断を受けた対象者、もしくはハイリスクとされた対象者へのケアの質向上を狙っているのか、それとも、対象を限定せず、助産師の日常的なケアの質向上を狙っているのかわからない。
- ・ 量的データの参加者特性による比較結果とそれに関する考察が不足している。
- ・ 質的データの分析が不足しており、量的データと質的データの統合の結果・考察の記述が不十分である。
- ・ CBT に類するかかわりは看護が古くから行ってきたことである。それを踏まえて今研究成果をどう発展させればよいのかというビジョンを示し考察する。
- ・ デジタル教材を使うなど、今後プログラムを普及させていくための提案を追記する。

これらの意見に対し、分析や考察を再検討し、論文を修正し、審査員全員が

適切に修正が行われたことを確認した。

上述の課題とともに、開発されたプログラムについては、成人学習理論をもとにデザインされ、専門家によるファシリテーションを伴うロールプレイや **e-learning** 教材が組み合わされ、参加者の満足度は高く、新規性・独創性の観点からも高い評価を得た。また、コロナ禍で着実に研究を遂行した研究者のプロジェクト・マネジメント力についても高い評価がなされた。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。